

水道工事標準仕様書 令和7年10月1日改定の要旨（※本改定は、一部改定となります。）

該当箇所(改定後)			要旨	主な改定・修正内容
大項目	中項目・小項目	ページ番号		
付録7 弁室及び消火栓設置図	沈下棒設置標準図	付7-2	-	図中、「洗砂」を「砂」に改定
	消火栓レジンブロック室図 (渦巻き式F付T字管)	付7-3		
	消火栓レジンブロック室図 (片フランジ曲管)	付7-3		
	空気弁レジンブロック室図	付7-5		
	配水小管排水栓レジンブロック室図	付7-7		
	バタフライ弁(弁体離脱型)室詳細図	付7-8		
	バタフライ弁(センターキャップ式)室詳細図	付7-9		

水道工事標準仕様書 新旧対照表

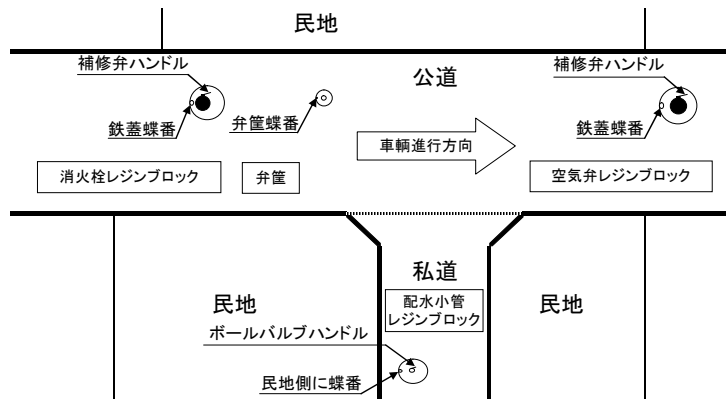
改定（令和 7 年 1 0 月 1 日）	現行
弁室及び消火栓設置図 平成 2 6 年 1 2 月 1 8 日 改定 平成 3 1 年 4 月 1 日 改定 令和 2 年 4 月 1 日 改定 令和 4 年 1 1 月 3 0 日 改定 令和 7 年 4 月 1 日 改定 令和 7 年 1 0 月 1 日 改定 付 7-1	弁室及び消火栓設置図 平成 2 6 年 1 2 月 1 8 日 改定 平成 3 1 年 4 月 1 日 改定 令和 2 年 4 月 1 日 改定 令和 4 年 1 1 月 3 0 日 改定 令和 7 年 4 月 1 日 改定 付 7-1

：改定箇所

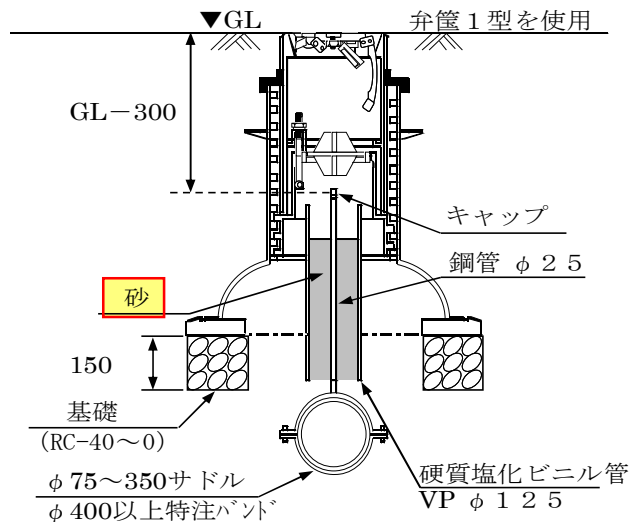
水道工事標準仕様書 新旧対照表

改定（令和7年10月1日）

弁室設置図



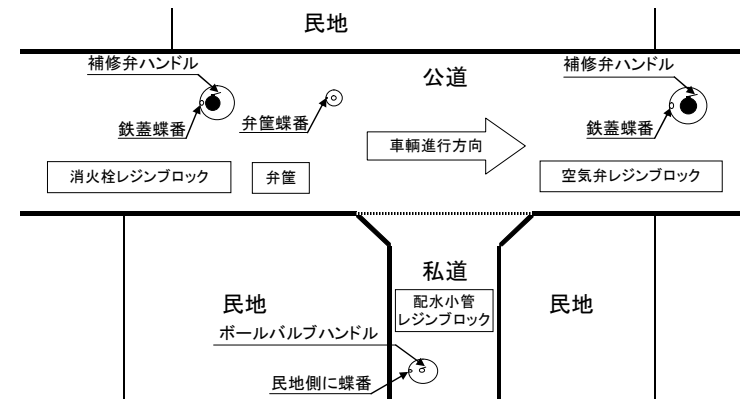
沈下棒設置標準図



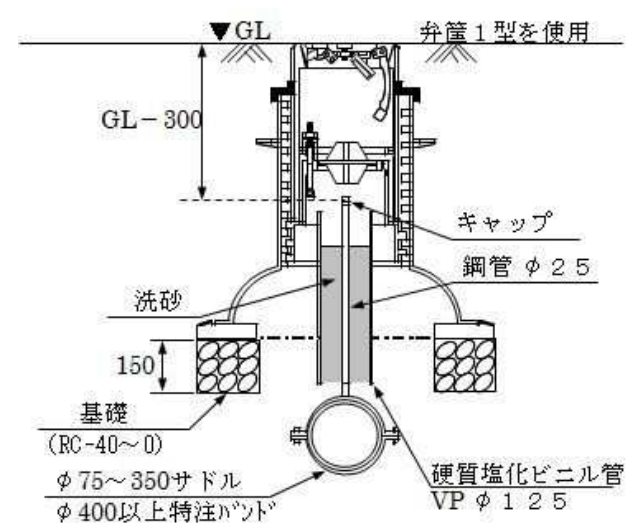
付7-3

現行

弁室設置図



沈下棒設置標準図

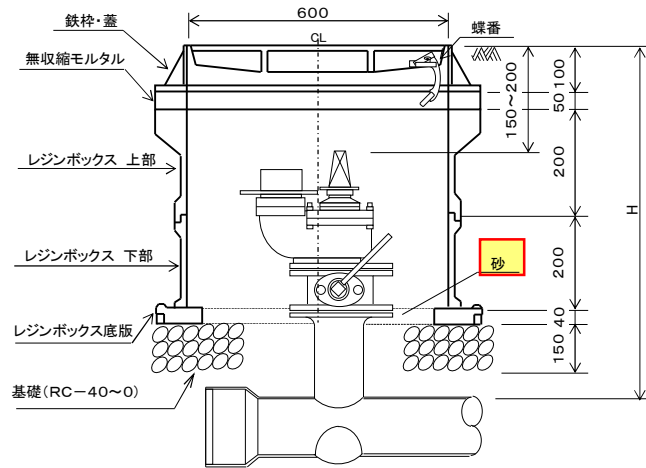


付7-3

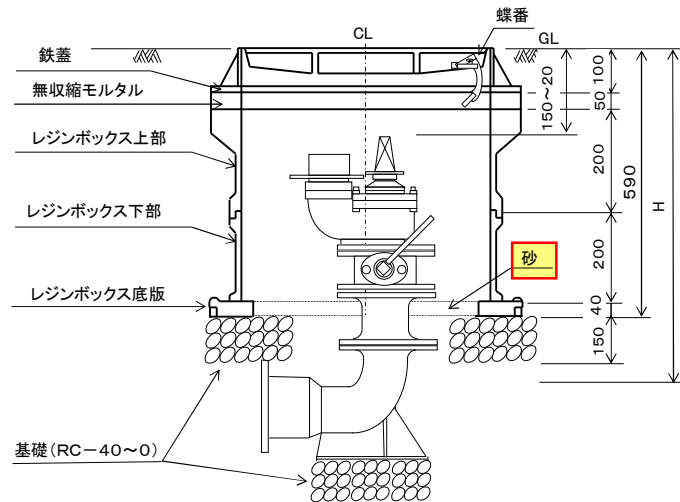
砂 : 改定箇所

改定（令和7年10月1日）

消火栓レジンブロック室図（渦巻き式F付T字管）



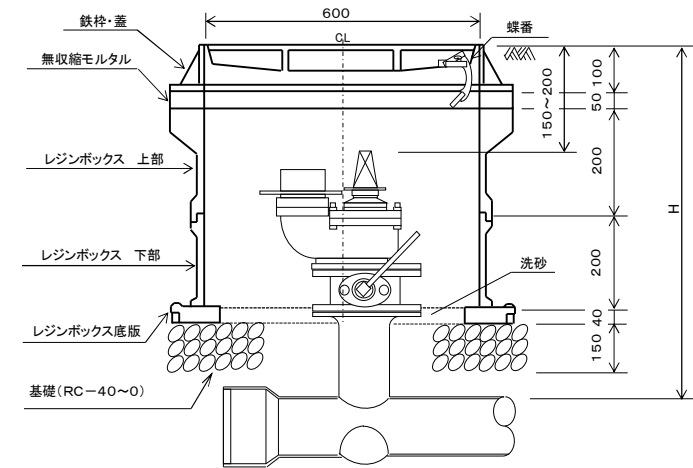
消火栓レジンブロック室図（片フランジ曲管）



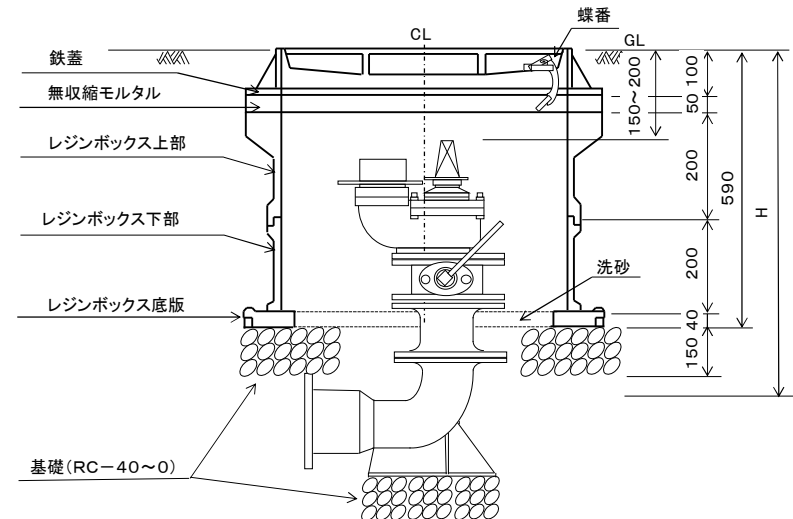
付 7-4

現行

消火栓レジンブロック室図（渦巻き式F付T字管）



消火栓レジンブロック室図（片フランジ曲管）



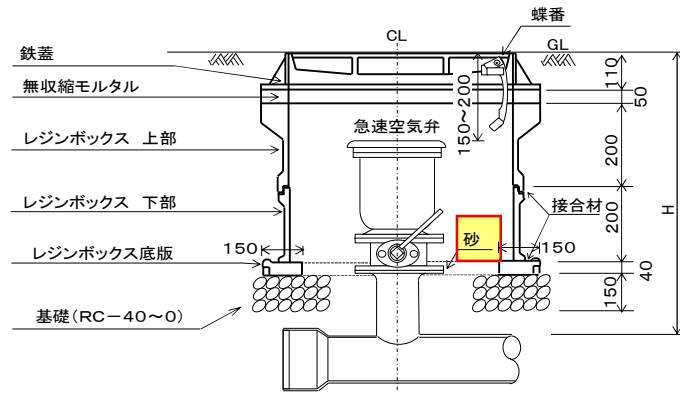
付 7-4

：改定箇所

水道工事標準仕様書 新旧対照表

改定（令和7年10月1日）

空気弁レジンブロック室図



表示プレート記入例

○	完成日	令和〇年〇月〇日	管種	DIP(GX-1E)
	管理番号	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	口径	〇〇〇
	工事名	拡第〇〇〇〇号		
	施工業者	〇〇〇〇株式会社		

※ 完成日には検査年月日を記入する。

※さいたま市の空気弁設置基準では、一般的な配水支管には設置しない。（水管橋を除く）

弁室寸法

鉄枠鉄蓋：H＝110

上 部：H＝200

下 部：H＝200

底 版：H＝40

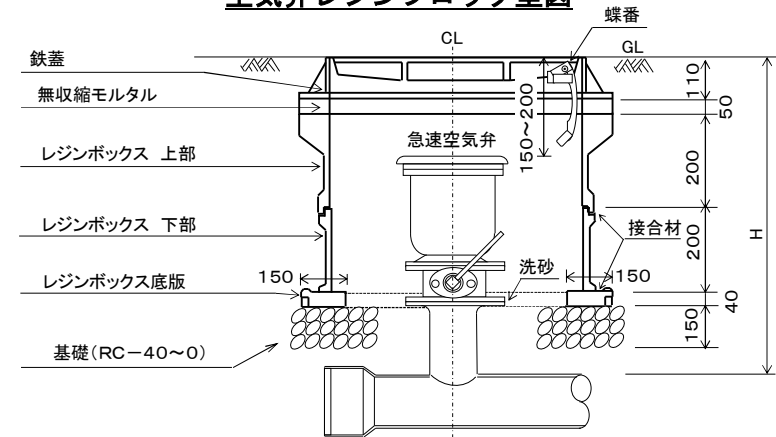
※築造注意点

1. 道路面（GL）より、空気弁上部までの間隔が15cm～20cmになるように、補修弁及び短管の長さで調節する。
2. 底版の下に基礎（RC-40～0）を15cm設ける。
3. 無収縮モルタルを鉄枠の下に5cm程度設ける。
4. ブロックとブロックの間に接合材を施す。
5. 補修弁のハンドルは民地側とする。
6. 補修弁のハンドルは開にしておく。
7. 蝶番は車輛進行方向に向かって手前とする。
8. 鉄蓋設置の際、調整ボルトの上端は路面から50mm以上下げた箇所で切断する。

付 7-6

現行

空気弁レジンブロック室図



表示プレート記入例

○	完成日	令和〇年〇月〇日	管種	DIP(GX-1E)
	管理番号	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇	口径	〇〇〇
	工事名	拡第〇〇〇〇号		
	施工業者	〇〇〇〇株式会社		

※ 完成日には検査年月日を記入する。

※さいたま市の空気弁設置基準では、一般的な配水支管には設置しない。（水管橋を除く）

弁室寸法

鉄枠鉄蓋：H＝110

上 部：H＝200

下 部：H＝200

底 版：H＝40

※築造注意点

1. 道路面（GL）より、空気弁上部までの間隔が15cm～20cmになるように、補修弁及び短管の長さで調節する。
2. 底版の下に基礎（RC-40～0）を15cm設ける。
3. 無収縮モルタルを鉄枠の下に5cm程度設ける。
4. ブロックとブロックの間に接合材を施す。
5. 補修弁のハンドルは民地側とする。
6. 補修弁のハンドルは開にしておく。
7. 蝶番は車輛進行方向に向かって手前とする。
8. 鉄蓋設置の際、調整ボルトの上端は路面から50mm以上下げた箇所で切断する。

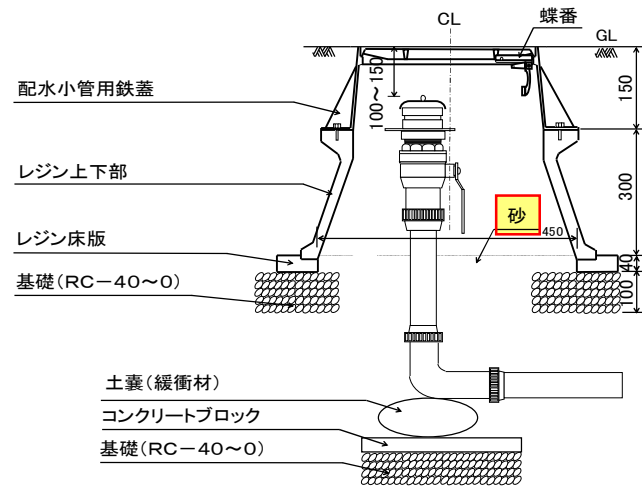
付 7-6

：改定箇所

水道工事標準仕様書 新旧対照表

改定（令和7年10月1日）

配水小管排水栓レジンブロック室図



表示プレート記入例

完成日	令和〇年〇月〇日	管種	DIP(GX-1E)
管理番号	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇		
工事名	拡第〇〇〇〇号		
施工業者	〇〇〇〇株式会社		

※完成日には検査年月日を記入する。

弁室寸法

鉄枠鉄蓋：H＝150

上下部：H＝300

床版：H＝40

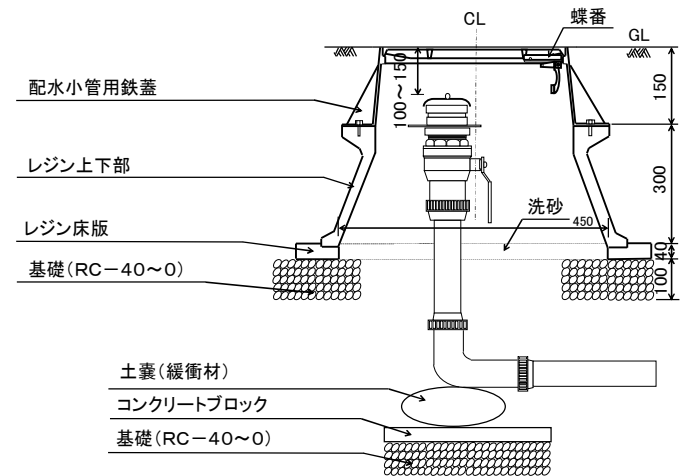
※築造注意点

1. 床版の下に基礎（RC-40～0）を10cm設ける。
2. 90°エルボの下に、緩衝材として土嚢を入れる。
3. 土嚢の下に沈下防止として基礎（RC-40～0）を設け、コンクリートブロックを設置する。
4. 道路面（GL）より、口金までの間隔が10cm～15cmになるように立上りのステンレス管で調節する。
5. 蝶番は、民地側に設ける。

付7-8

現行

配水小管排水栓レジンブロック室図



表示プレート記入例

完成日	令和〇年〇月〇日	管種	DIP(GX-1E)
管理番号	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇		
工事名	拡第〇〇〇〇号		
施工業者	〇〇〇〇株式会社		

※完成日には検査年月日を記入する。

弁室寸法

鉄枠鉄蓋：H＝150

上下部：H＝300

床版：H＝40

※築造注意点

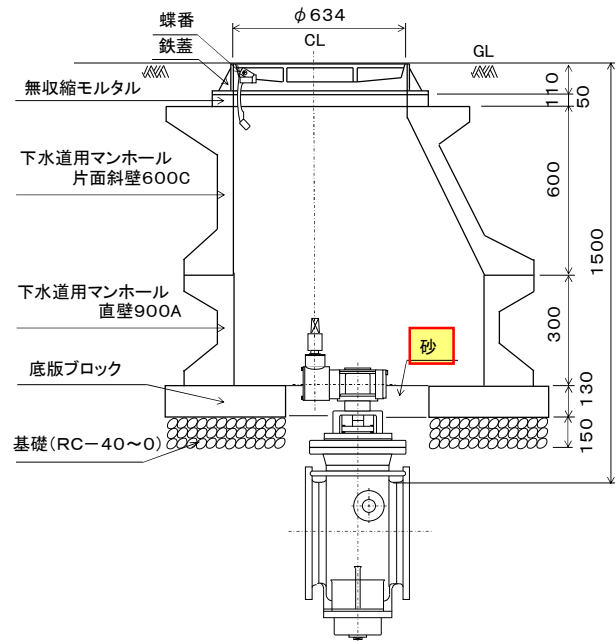
1. 床版の下に基礎（RC-40～0）を10cm設ける。
2. 90°エルボの下に、緩衝材として土嚢を入れる。
3. 土嚢の下に沈下防止として基礎（RC-40～0）を設け、コンクリートブロックを設置する。
4. 道路面（GL）より、口金までの間隔が10cm～15cmになるように立上りのステンレス管で調節する。
5. 蝶番は、民地側に設ける。

付7-8

：改定箇所

改定（令和7年10月1日）

バタフライ弁（弁体離脱型）室詳細図



弁室寸法

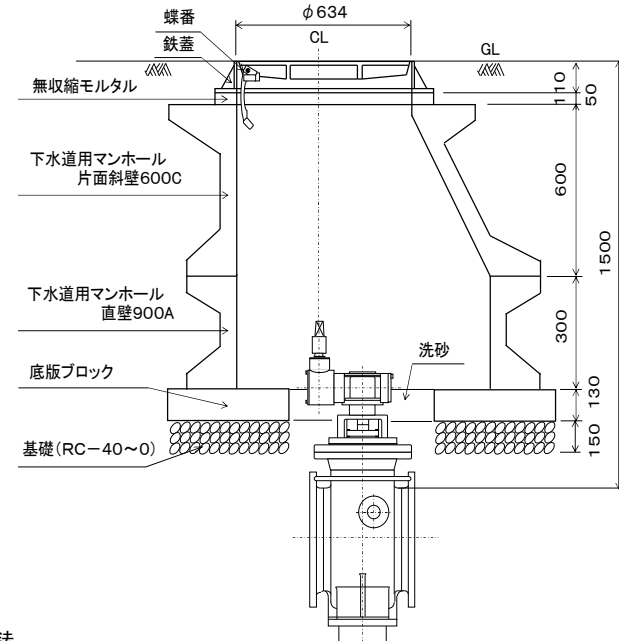
鉄枠鉄蓋：H＝110
上 部：H＝600
下 部：H＝300
底 版：H＝130

※築造注意点

1. 底版の下に基礎（RC-40～0）を15cm設ける。
2. 無収縮モルタルを鉄枠の下に5cm程度設ける。
3. 蝶番は車輛進行方向に向かって手前とする。
4. 必要に応じ中間ロッドを設ける。
5. 表示プレートに製作メーカー・回転数を記入する。
6. 鉄蓋設置の際、調整ボルトの上端は路面から50mm以上下げた箇所で切断する。

現行

バタフライ弁（弁体離脱型）室詳細図



弁室寸法

鉄枠鉄蓋：H＝110
上 部：H＝600
下 部：H＝300
底 版：H＝130

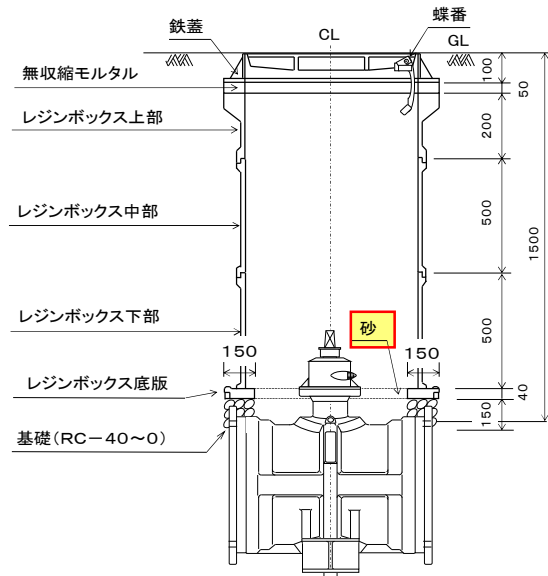
※築造注意点

1. 底版の下に基礎（RC-40～0）を15cm設ける。
2. 無収縮モルタルを鉄枠の下に5cm程度設ける。
3. 蝶番は車輛進行方向に向かって手前とする。
4. 必要に応じ中間ロッドを設ける。
5. 表示プレートに製作メーカー・回転数を記入する。
6. 鉄蓋設置の際、調整ボルトの上端は路面から50mm以上下げた箇所で切断する。

水道工事標準仕様書 新旧対照表

改定（令和7年10月1日）

バタフライ弁（センターキャップ式）室詳細図



弁室寸法

鉄枠鉄蓋：H＝110

上 部：H＝200

中 部：H＝500

下 部：H＝500

底 版：H＝40

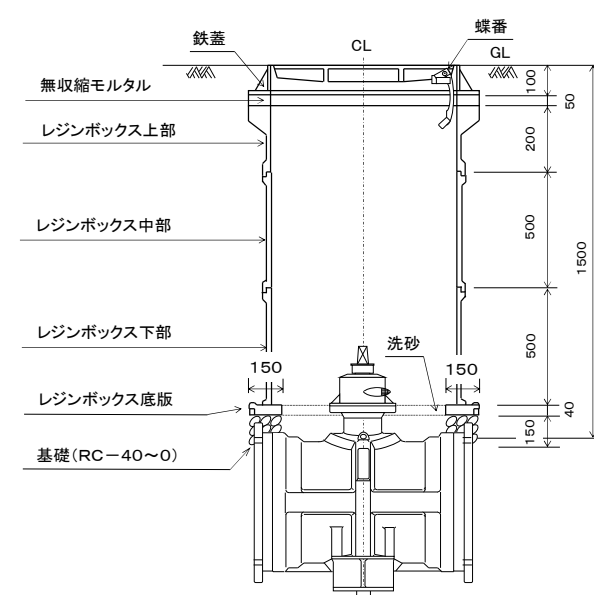
※築造注意点

1. 底版の下に基礎（RC-40～0）を15cm設ける。
2. 無収縮モルタルを鉄枠の下に5cm程度設ける。
3. 蝶番は車輛進行方向に向かって手前とする。
4. 必要に応じ中間ロッドを設ける。
5. 表示プレートに製作メーカー・回転数を記入する。
6. 鉄蓋設置の際、調整ボルトの上端は路面から50mm以上下げた箇所で切断する。

付 7-10

現行

バタフライ弁（センターキャップ式）室詳細図



弁室寸法

鉄枠鉄蓋：H＝110

上 部：H＝200

中 部：H＝500

下 部：H＝500

底 版：H＝40

※築造注意点

1. 底版の下に基礎（RC-40～0）を15cm設ける。
2. 無収縮モルタルを鉄枠の下に5cm程度設ける。
3. 蝶番は車輛進行方向に向かって手前とする。
4. 必要に応じ中間ロッドを設ける。
5. 表示プレートに製作メーカー・回転数を記入する。
6. 鉄蓋設置の際、調整ボルトの上端は路面から50mm以上下げた箇所で切断する。

付 7-10

：改定箇所